

伊藤晴雨 幽霊画展



伊藤晴雨 幽霊画展

特設コーナー

「**幽霊が美しい**」
—スタジオジブリ
鈴木敏夫の眼—

平成28年 8月 11日 (木・祝)

→ 9月 25日 (日)

東京都江戸東京博物館 常設展示室内 5F企画展示室

〔開館時間〕 午前9時30分～午後5時30分

土曜は午後7時30分まで。ただし、8月12日から8月27日までの毎週金・土曜日、および9月9日(金)、10日(土)は午後9時まで開館。入館は閉館の30分前まで。

〔休館日〕 8月22日・29日、9月5日 (各月曜日)

※ 常設展観覧料でご覧になれます。

主催：東京都 東京都江戸東京博物館 特別協力：臨済宗 全生庵 企画協力：スタジオジブリ

 **江戸東京博物館**
EDO-TOKYO MUSEUM

CULTURE & TOKYO

〔血屋敷のお菊〕 全生庵蔵

同時開催 「山岡鉄舟生誕 180 年記念 山岡鉄舟と江戸無血開城」展 (常設展示室内 5F企画展示室)

伊藤晴雨幽霊画展

古来より日本人は、万物に霊性を求め、「この世のものではないもの」を感じ取るうとしてきました。それらは、生身の人間を超えた能力や異なる外見を持つものとされ、恐怖や畏怖の対象として、さまざまな姿に描かれています。

今回ご紹介する幽霊画は、落語家五代目柳家小さんによって全生庵に寄贈されたもので、大正〜昭和にかけて活躍した画家・伊藤晴雨が描いた全19点の画幅です。歌舞伎や落語でおなじみの怪談の一場面、幽霊・妖怪が鮮やかな筆さばきで描かれており、舞台芸術や演芸界とも関わりの深かった晴雨ならではの作品です。

多種多様な作品を手がけた晴雨は、画中のリアリティを追求し、江戸風俗研究にも情熱をかたむけました。本展では、幽霊画を中心に、緻密な時代考証による江戸風俗図などを展示し、その観察眼と筆力に迫ります。

展示構成

1. 晴雨の画業
2. 晴雨の幽霊画
3. 晴雨の眼特設コーナー



「幽霊が美しい―スタジオジブリ 鈴木敏夫の眼―」

全生庵とは

幕末から明治の幕臣・政治家・剣術家である山岡鉄舟（二八三六―一八八八年）によって、明治16年（一八八三年）東京・谷中（台東区）に建立された臨済宗のお寺です。鉄舟と親交のあった落語家三遊亭圓朝の墓があり、怪談斬を得意とした圓朝が集めていた幽霊画のコレクションが寄贈されています。

「幽霊が美しい―スタジオジブリ 鈴木敏夫の眼―」

偶然の出会いだった。去年の夏の出来事。幽霊画を楽しむべく全生庵を訪ねた。それはぼくにとつて、ここ数年の夏の恒例行事だった。

半分、見終わった時のことだ。見慣れない幽霊画が並んでいた。最初に目に入って来たのが、牡丹灯籠だった。お露とお米のふたりが空中に浮かんでいる。志の輔師匠の牡丹灯籠を聞いたばかりだったことも手伝って、その斬と画が重なった。お露が本当に美しい。髪のはつれ毛が、手の品が。子ども頃の懐かしい、しかし、恐ろしかった思い出。番町皿屋敷のお菊の亡霊も、この上なく美しかった。見惚れていると、作者の名前が目に入った。伊藤晴雨。混乱が起きた。ぼくにとつて、晴雨は責め絵や縛り絵の達人だった。晴雨が、こんなかわい美しい画を描くはずがない。葛藤が起きた。同行した友人が、ぼくの葛藤をよそに画を楽しんでいた。そして、友人が素晴らしいと言いつつ、ぼくに見ることを強いたのが吊り灯籠だった。これ、お盆提灯ですかねえ。構図の大胆さと線の繊細さが相まって、灯籠に映る男の顔が得も言われぬ怖さだった。その日の出来事は、まるで夢のような一日で、強烈な印象をぼくに残した。

間を置かず、あれは本当に素晴らしい画だったのか気になり、もう一度、全生庵を訪ねた。確信を持った。自分の目に狂いはない。今度は、ぼくにも余裕があった。猫怪談の猫の可愛らしさや地獄の釜の蓋が開く晴雨のユーモラスな一面も楽しむことが出来た。そして、展示の人に尋ねた。図録はありませんか。無かった。すると、その人が教えてくれた。今回が初公開で他にもいろいろあるらしいと。全部の作品を見たいと思った。

晴雨になぜ、ぼくは心惹かれたのか。ひとことで言うなら、晴雨の巧みな筆捌きに魅了された。真っ白な紙に筆を置いて、すっと書き下ろす。濃い薄い、速いゆっくりは書きながら瞬時に判断する。その思い切りの良さ。見ているだけで、何物にも代え難い快感がある。それは鳥獣戯画の実物を初めて見たときの興奮に似ていた。印刷物だと、微妙に再現できないのがその筆捌きだ。身体中を快感が走る。比べるものもおこがましいが、ぼくにしても、下手を承知で筆を執り書と画を描く。ゆえに、その捌きの見事さに圧倒された。手練でなければ、ああは書けない。

ぼくの別の友人に昔の画に詳しい男がいたので、晴雨のことを話すと、なんと彼は自分の親戚だと言いつつ出た。なんでも母方の親類筋にあたり、親戚はみな、そのことをひた隠しにしていることも分かった。ぼくがかつて所属した徳間書店の昔の大先輩にも教えられた。貧乏だったらしく、仕事の斡旋を頼むべく、自宅によく顔を出していたと。

晴雨の描いた絵は、一般には世間の評価は低い。ぼくにしても偏見があった。しかし、今回の展示で公表する晴雨の画は、それらのものと線を画すと信じて、今回の展示を提案した。晴雨に対する世間の評価を引つ繰り返したい。ぼくのささやかな野心だった。

晴雨の軸は、すべて小さんコレクションの寄贈だと書いてあった。ぼくは、小さん師匠の最期の高座に立ち会っている。紀伊國屋ホールだったと記憶している。小さん師匠が登場して何も語らず、しばらくの間、同じ姿勢のまま座り続けていた。いつ落語が始まるのか、耐え難い間があった。すると、お弟子さんらしき人が登場して、小さん師匠を抱きかかえ奥へと引込んだ。師匠が亡くなったのは、その直後のことだった。

ぼくは、小さん師匠が晴雨に引き合わせてくれた。そう信じている。

スタジオジブリ



（伊藤晴雨 幽霊画集―柳家小さんコレクション―より）



※展覧会のくわしい情報はホームページをご覧ください。

■ 関連事業 常設展観覧料が必要です。

◆ ミュージアムトーク（展覧会見どころ解説）

日時：8月19日、9月2日（各金曜日） / 午後4時から30分程度
集合場所：常設展示室5階 日本橋下

◆ ひまわり寄席「怪談の夕べ」

日時：8月13日・20日・27日（各土曜日） / 午後6時30分から45分程度
場所：常設展示室5階 中村座前

■ 常設展観覧料

一般	600円 (480円)
大学・専門学校生	480円 (380円)
中学生（都外）・高校生・65歳以上	300円 (240円)
中学生（都内）・小学生以下	無料

常設展観覧料でご覧になれます。

※（ ）内は20人以上の団体料金。

※ 中・高・大学・専門学校生の方は学生証を、65歳以上の方は年齢を証明できるものをお持ちください。

※ 次の場合は常設展観覧料が無料です。身体障害者手帳・愛の手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・被爆者健康手帳をお持ちの方と、その付き添いの方（2名まで）。

※ 毎月第3水曜日（シルバーデー）は、65歳以上の方は常設展観覧料が無料です。年齢を証明できるものをお持ちください。

※ 家族ふれあいの日（8月20日・21日、9月17日・18日）に観覧の、18歳未満の子を同伴する保護者（都内在住）2名の料金が半額となります。

※ 特別展の会期中は、お得な特別展・常設展共通観覧券もごさいます。（特別展の料金は展覧会ごとに定めます）